

左勝

五月雨に日はくれぬめり里遠み山田のさなへとりもはてぬに

藏人修理亮藤原隆資

右

小乙女の山田のまみにおりたちていそげやさなへむろのはやわせ

少納言源信房

四番戀

左持

うらみわびほさぬ袖だにある物を戀に朽なん名こそおしけれ

相模

右

下もゆるなげきをだにもまらせばやたゝ火のかげのまばしばかりに

右近中將源經俊

五番祝

左持

秋のそらいづる月日のさやかにもよるづ代すめるくものうへかな

式部大輔藤原國成朝臣

右

春日山枝さしそむる松の葉は君が千とせの數にぞありける

右近中將資綱朝臣

〔中右記〕寛治七年五月五日辛巳今日新女院○郁芳門院女房之根合也未刻左右方人參集東泉殿

右方東西御所但右方儀式不知之右方念人二位宰相中將右大弁兩貫首以下來會之後源大納言雅

清書方和歌書後從御所召大納言聞右中無清書之人由仍遣此大納言也此間左方人々議定云此

哥事○哥若有風聞者如何然者講席之間可奏此由歟西時左方人々乘船進御前是開水之中門道

其路也船頗輕、幄上葺菖蒲、本院侍四人、著布衣爲船、二位中將著直衣乘此船、殿上人皆著直衣、此

弁重資、兵衛、吹雙調、次歌席田爲參音聲、笙左近府生時之拍子、下官藤原宗忠頭少將付歌、刑部卿顯